

東邦大学医療センター大森病院臨床研修プログラム

大森・選択専攻科目

精神神経科（4週以上）

1 研修プログラムの目的と特徴

精神医学の基礎的修練を行い、精神科医として基本的な専門的診療業務を修得することをプログラムの目的とする。また全人的医療を実践できる医師としての基礎知識・手技を修得することを目的とする。

2 プログラム管理運営体制

大森病院精神神経科が主体となり運営する。教授・准教授・講師で基本案を作り、臨床研修指導医会議に諮る。プログラム内容・運営に齟齬が生じた場合は逐次改正し、精緻化していく。

3 教育プログラム

3-1 研修期間と研修医配置予定

選択専攻での研修期間は4週以上である。

臨床研修指導医の下で病棟の患者を担当し、精神科医として必要な検査や外来診療にも関与する。

3-2 一般目標（GIO）

1. 精神疾患に関する基本的知識を身につける。
2. 基本的な面接態度を学ぶ。
3. 精神症状および心理状態の捉え方を身につける。
4. 患者および家族との関係性について学ぶ。
5. 精神疾患の治療法を学ぶ。
6. 精神療法の基本を学ぶ。
7. コンサルテーション・リエゾン精神医学の知識を学ぶ。
8. 精神障害者の人権・福祉を学び、社会的立場の理解を深める。

3-3-1 行動目標（SBOs）

- 1) 精神疾患における重要な症状や症候学を理解し、適切な診察を行なうことができる。
- 2) 状態に応じた適切な検査を選択し、行なうことができる。
- 3) 鑑別診断と重症度の評価を行なうことができる。
- 4) 基礎的な治療を的確に選択し、行なうことができる。

3-3-2-A 経験すべき診察法・検査・手技

- 1) 問診にて重要な精神疾患の可能性を考えることができる。
- 2) 全身身体所見と問診で得た情報を総合して記載し、診断の道筋を説明することができる。

- 3) 病態に関わる心理・社会・身体的要因を分析することができる。
- 4) 症状の見方、診察法、面接技術、経過観察法、治療方針の立て方、予後判定診断技術を身に付ける。
- 5) 臨床脳波の所見を評価できる。
- 6) 頭部 CT、MRI、脳 SPECT、NIRS（光トポグラフィ検査）、心理テストなどの結果の情報を加え、確定診断をつけることができる。
- 7) 適切な薬物療法を行なうことができる。
- 8) 精神療法の基本的方法を学び、医者・患者関係の距離のとり方、説明の仕方に齟齬のないようにすることができる。
- 9) 家族療法、特殊療法、生活指導、作業療法、デイケアを含む心理社会療法を選択し、行なうことができる。

3-3-2-B 経験すべき症状、病態、疾患

- 1) 統合失調症
- 2) 気分障害
- 3) 精神作用物質使用による精神および行動の障害
- 4) 不安症
- 5) ストレス関連障害
- 6) 身体表現性障害
- 7) 認知症
- 8) 器質性・症状性精神障害
- 9) 成人のパーソナリティおよび行動の障害
- 10) 児童・思春期精神障害
- 11) 心理的発達の障害
- 12) 精神発達遅滞

・臨床研修ガイドラインにおいて挙げられた、「経験すべき症候（29症候）」および「経験すべき疾病・病態（26疾病・病態）」についても各研修分野で該当するものを外来診療または受け持ち入院患者（合併症含む）で自ら経験する。「経験すべき症候（29症候）」および「経験すべき疾病・病態（26疾病・病態）」の詳細については別紙参照のこと。

・上記症候、疾病・病態を経験したことの確認については各研修分野の臨床研修指導医による病歴要約の確認、および卒後臨床研修/生涯教育センターにおいて全研修医の病歴要約の確認をもって行う。

3-3-2-C 特定医療現場の経験

- 1) ICU、腎透析、外科手術後のリエゾンコンサルテーションを行なうことができる。
- 2) 救急外来の対応、初期治療、特に自殺企図者への対応ができる。
- 3) イルボスコにおいて早期介入につき研修を行う。

3-4-1 学習方略 (LS)

- 1) 教授回診：毎週月曜日は午後2時から4時まで回診に出席する。
- 2) 外来診察：鑑別を意識し現病歴と生活歴をとる
- 3) 入院時診察：研修指導責任者と1対1で受け持ち患者の説明をする。
- 4) 症例検討：毎週月曜日1名ないし2名の新入院患者の症例検討をおこなう
- 5) 抄読会：毎週月曜日研修医を中心に英語論文の抄読をおこなう。臨床研修指導医と一緒にPub Medを使い、精神科最新テーマに関する英語論文を研修期間中に複数抄読し、内容をまとめる。
- 6) クルズス：臨床脳波、画像診断学、精神療法（広義）、薬物療法、精神病理、心理テスト、社会精神医学、司法精神医学、児童精神医学
- 7) 金曜日の児童イルボスコカンファレンスに出席し、要請があればその会のテーマ内容について事前に勉強し、発表する。
- 8) 年数回の外部講師による講演会に出席する。
- 9) 大学院生の所属する基礎研究室の勉強会に参加することができる。

3-4-2 週間スケジュール

研修期間中の勤務時間、休暇、当直に関しては東邦大学医療センター大森病院の規程に従う。勤務時間は原則午前8時30分から午後5時までである。担当患者の状態によっては、この限りではない。また、症例検討会、個別勉強会や研究会は時間外に行われることもある。その他、上級医と共に救急当直、病棟当直をおこなう。研修協力病院の勤務時間は各病院の規程にしたがう。

3-5 評価 (EV)

- 1) 患者への対応、診察能力(態度、技能、知識)が習得されたかをもって評価基準とする。臨床研修指導医、研修指導責任者、病棟看護師長等が評価表を用い、評価を行う。
 - 2) 統合失調症、気分障害、認知症(せん妄)についてはレポートを作成する。
- プログラム修了時に、病棟看護師長、診療チーム臨床研修指導医、病棟長の評価表、上記最低3症例のレポートを評価する。また各種教育行事、出席状況、抄読会での発表内容などを勘案して直接の臨床研修指導医が総合評価する。

3-6-1 指導体制

本プログラムの最終責任者は大森病院精神科の指導責任者である。研修医は診療チームに配属され直接の臨床研修指導医である助教のもとでチームの一員として指導を受ける。時間の許す限り上級医の指導を求めることができる。研修協力病院の指導体制は各病院で定める。

3-6-2 臨床研修指導医

添付資料『臨床研修指導医』該当診療科の臨床研修指導医、及び指導医責任者を参照のこと。

3-6-3 協力施設

※詳細は臨床研修病院群[プログラム冊子添付資料]参照